

第10回 苫小牧市中小企業振興審議会要旨

1 日 時 平成31年3月18日(月) 13:30~14:30

2 場 所 職員会館 304号室

3 出 席

(1) 苫小牧市中小企業振興審議会委員

秋山委員、岩佐委員、鏡委員、川島委員、小玉委員、小山委員、坂本委員、
多田委員、中條委員、西川委員、平井委員、保田委員、柳委員

(2) 事務局(市)

木村産業経済部長、望月産業振興室長

商 業 振 興 課：武田課長、由利主査、新田主査、朝倉主事

工業・雇用振興課：能代主査、佐藤主事、今井主事

4 概 要

(1) 開会

苫小牧市中小企業振興審議会開会(委員15名中13名出席、苫小牧市中小企業審議会規則第4条第2項の規程による審議会開催の定足数を満たしている)

(2) 木村産業経済部長挨拶

委員の皆様におかれましては、日頃より市の中小企業振興にご協力いただき、心より感謝申し上げます。第3期審議会におかれましては、平成30年4月に「中小企業振興計画」を完成させたこと、また、今回、第3期報告書という形で次期審議会への引き継ぎを固めることができたのは、委員の皆様のお力によるものと考えております。今後も引き続き、中小企業振興をはじめとした市の施策について、ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

(3) 議事

①部会活動報告について

中條副部長より、1月23日(水)に開催した第7回創業促進部会について、資料1に基づいて報告あり。①報告書(案)全体に対する意見として、「キャッシュレス決済について、審議会ではどう扱うべきか検討が必要。」「もし行政がキャッシュレスを推進するなら、まず行政自身が率先して取り組むべきである。」といった意見が出たが、報告書に反映させる内容はなかったとのこと。

②報告書(案)4・5ページに対する意見では、「事業承継に関する情報を広く情報収集できる仕組みが欲しい」「売り手と買い手のマッチングサイトがあれば理想的」「事業承継のマッチングは市内企業同士が望ましい」「小規模事業者はM&Aの対象になりにくい傾向にある」「事業承継などの問題を対処する『よろず相談窓口』が必要」というような意見が出た。

結論として、『次期部会への申し送り事項』に掲載する項目は下記のとおりとする。

1. 事業承継は、小規模事業者を主な対象とした取組が必要である。

2. 事業承継について、必要性周知や関心を持ってもらう取組が必要である。

この2項目について追加することとなった。

鏡部会長より、第7回人材育成・事業承継部会について報告あり。主要意見については、「中小企業の人材確保」を追加するべきという意見があった。部会における課題と提案では、「インターンシップについて、しっかり企業・学生双方が交流し合えるような形が良い」という議論が行われた。計画で実施中であるが、改善が必要な取組・事業等については、議論は行われたものの、報告書の修正をするものではなかった。

次期部会への申送り事項については、事業承継について今後さらに促進していくためには、創業促進部会と連携が必要ということを経済報告書に追加するべきということで結論付けて部会を終えた。

岩佐部会長より、第7回販路拡大・需要開拓部会について報告あり。報告書(案)に関する意見では、キャッシュレス決済について、「国の補助金もあり販路拡大にも大きく関連するが、流動的な部分も多く、報告書に反映させるのは難しい」という意見があったこと、また「審議会から市へ事業を提言しようにも、市の予算要求日程を考えると、新規提案は2021年度となりタイムリーさに欠ける」という意見、「今後も市の販路拡大事業等について提言が必要であることを掲載すべきである」「販路拡大セミナーについて、『セミナー参加者に対する補助制度の紹介』など、販路拡大へつなげる表現が必要である」という意見、「次期審議会では、海外へのテストマーケティングや国内での販路拡大についてより踏み込んで実施してほしい」「『次期部会への申送り事項』における『マーケティングの必要性』について文言が重複しているので整理すべきである」というものがあった。

その他の意見として、「キャッシュレス決済について、市も取組を進めてみては」というものがあり、これに対し事務局より「H30イノベーションマッチング事業において、商業施設でキャッシュレス決済のトライアル実績あり。また、市がキャッシュレス推進協議会に入会し情報収集中」という回答があった。その他、「中小企業に対しては、積極的に支援するというよりも主導するという支援も必要ではないか」「小規模企業者や個人事業主などへの情報発信なども課題である」というものがあった。

結論として、報告書に反映させる内容は下記のとおりとする。

1. P8《主要意見》の販路拡大セミナーについて、参加者に補助事業の紹介をすることを追加する。
2. P9『次期部会への申し送り事項』について、「マーケティングの必要性」について重複した文言を整理する。

②第3期審議会報告書について

事務局から資料2に基づき、前回審議会からの報告書(案)の変更点及び再修正があれば3月25日(月)までに事務局へ連絡いただきたいこと、また4月中旬に川島会長から市長へ本報告書を提出することについて説明。

▽会長

事務局からの説明について、気づいた点や指摘はないか。

▽委員

今後の審議会・部会について、キャッシュレス決済など、急いで検討が必要な事項がある場合は、即座に対応できるような体制づくりが必要ではないか。

▽会長

事務局の見解を求めたい。

▼事務局

必要があれば、ワーキンググループの設置なども今後考えていきたい。

▽会長

計画別冊の最新版は昨年7月に更新したものであるが、4月に市長に手渡す前に更新する予定はあるか。

▼事務局

審議会の市長への報告前までには、別冊を新年度版に更新する予定である。

▽会長

ではその他の意見を求めます。

▽委員

中小企業振興についてこれまで勉強させていただきました。今後も私の立場でできることは一生懸命行っていきたいと思う。

▽委員

人材育成のみならず、3つの部会の全体像が最後に理解できるようになってきた。次期審議会でも、新しい委員で引き続き議論していただきたい。

▽会長

事務局から説明があったが、再度下記2点について補足する。

- ・新元号が決まり次第、報告書案の未完成箇所を事務局で埋めること
- ・報告書に修正が必要であれば、25日(月)までに事務局へ申し出てほしい

③その他

▽会長

第3期審議会の2年間を振り返り、委員より一言ずつお話をいただきたい。

▽委員

これまで審議会・部会で話し合った創業支援やマッチングなど、どこまで形に

していけるかが課題であるため、次期審議会で明らかになればと考えている。

▽委員

販路拡大セミナーは盛況に終わったが、課題も見えたので次期以降も前進していけると思う。しかし第2期で議論した内容がまだ実現していないということもあるので、早いペースで課題を解決して、今後新しい部会を立ち上げるなど期待したい。

▽委員

日程が合わず参加できないこともあったが、これまでご意見させていただいた。今後は効率の良い審議会運営というよりも、時間をかけてしっかり議論していくことも必要かと感じた。また、今後、中小企業も IOT・AI 化が欠かせないことなどもあり、今回キャッシュレス決済など最新の話題が出たことは良いことだと思っている。次期審議会はより進んでくれたらと思う。

▽委員

第3期審議会は、計画策定という形になったものがある一方、その実行面が弱いことを実感している。今後は実践につなげる仕組みづくりをされることを願っている。

▽委員

中小企業振興は実行段階にあることを感じてはいるが、中小企業への周知不足は否めないため、より広く伝えることが必要である。中小企業は市の経済を支えているため、リーダーシップのある人材の育成などに努めていただきたい。

▽委員

企業の立場で考えると、この2年間は働き方改革やキャッシュレス決済の推進など、企業を取り巻く環境が大きく変化している。実現は大変だが時代の流れに取り残されないよう今後も励んでいきたい。

▽委員

専従者という立場で2年間参加し、大変勉強になった。ありがとうございました。

▽委員

我々経済団体は事業承継のお手伝いや胆振東部地震の聞き取り調査などを実施したが、中小企業者が求める情報を手に入れるのは難しいと感じている。また事業者でもキャッシュレスなどトレンドに乗っている方もたくさんいるので、タイムリーな話題として行っていけると効果的と思う。中小企業の皆さんは人員や時間に余裕がない方も多いため、今後どのように中小企業振興策を周知するかなど、また知恵を出し合っていければよいと思っている。

▽委員

本審議会には、私を含め3人の北海道中小企業家同友会の委員がおり、それぞ

れが審議会における3部会に所属している。このことで各部会間の情報共有ができたこと、また市の担当課長が同友会の会合に毎月出席されるようになり、情報交換を行うなど、全体が良い方向に向かっている。この流れで審議会もよりよいものにしていきたいと思っている。

▽委員

中小企業の問題は非常に奥が深く、解決しなければいけない問題も多い。私が所属しているのは地元の金融機関だが、私たちだけでは解決できない課題も多いため、市や商工会議所・同友会と協力して今後も取り組んでいきたいと思っている。

▽委員

2年間勉強をさせていただき感謝している。発言等はあまりできなかったが、あっという間の2年間であった。

▽委員

議論についていだけで精一杯であったが、非常に勉強になった2年間であった。本日も審議会の議論を持ち帰って共有したいと考えている。

▽会長

第3期中小企業審議会について、この2年間15名の委員でここまで来ることができたことに、感謝を申し上げたい。本審議会は平成25年に中小企業振興条例が施行され立ち上がったもので、これまで6年間、私は会長を務めさせていただいた。第1期・第2期では中小企業のニーズを把握するため、中小企業実態調査を行ったが、その結果に基づき、今期皆さんで中小企業振興計画を作り上げるという結果を残すことができ、嬉しく思っている。

今後は、各委員から意見が出たように、計画をいかに実行し中小企業のための施策ができるかという点が、第4期への引継ぎのポイントとなると思っている。また、ここ数年で中小企業を取り巻く環境が大きく変わってきているため、新しい施策を取り入れながら、多忙な中小企業の皆さんにどう情報を発信するかなどが今後の課題となるだろう。

本審議会も10回目の開催となり、これまでたくさん議論させていただいた。最後に委員・事務局に感謝を申し上げ、閉会としたい。

(4) 閉会